

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 29 日 (2006.6.29)

【公開番号】特開 2001-97745 (P2001-97745A)

【公開日】平成 13 年 4 月 10 日 (2001.4.10)

【出願番号】特願 平 11-280310

【国際特許分類】

C 0 3 C 27/12 (2006.01)

C 0 8 K 3/08 (2006.01)

C 0 8 K 5/10 (2006.01)

C 0 8 L 29/14 (2006.01)

C 0 9 J 11/04 (2006.01)

C 0 9 J 11/06 (2006.01)

C 0 9 J 129/14 (2006.01)

【F I】

C 0 3 C 27/12 D

C 0 8 K 3/08

C 0 8 K 5/10

C 0 8 L 29/14

C 0 9 J 11/04

C 0 9 J 11/06

C 0 9 J 129/14

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 5 月 17 日 (2006.5.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ポリビニルアセタール樹脂 100 重量部と、トリエチレングリコールモノ 2 - エチルヘキサノエートを 0.1 ~ 5.0 重量% 含有するトリエチレングリコールジ 2 - エチルヘキサノエート 20 ~ 60 重量部とを主成分とする合わせガラス用中間膜であって、ナトリウム (Na) を 5 ~ 50 ppm 及び / 又はカリウム (K) を 5 ~ 100 ppm 含有することを特徴とする合わせガラス用中間膜。

【請求項 2】 少なくとも一対のガラス間に、請求項 1 記載の合わせガラス用中間膜を介在させ、一体化させて成ることを特徴とする合わせガラス。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

本発明 (以下、発明 2 という) による合わせガラス用中間膜は、発明 1 の合わせガラス用中間膜において、ポリビニルアセタール樹脂が、ポリビニルブチラール樹脂であることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

請求項 2 記載の発明（以下、発明 3 という）による合わせガラスは、少なくとも一对のガラス間に、発明 1 又は 2 による合わせガラス用中間膜を介在させ、一体化させて成ることを特徴とする。

以下、本発明を詳細に説明する。